

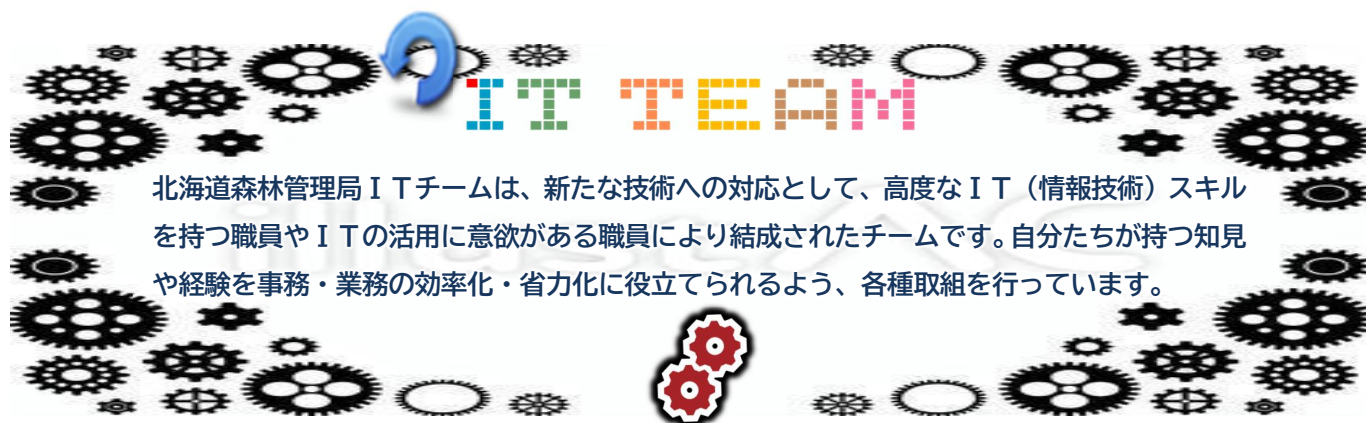


- ・北海道森林管理局ＩＴチームの取組（業務調整課）
- ・地域との協力による効率的な森林整備（空知森林管理署）
- ・こんにちは森林官です！（和寒森林事務所）
- ・若手職員のコーナー（空知森林管理署）
- ・センター通信（常呂川森林ふれあい推進センター）

林野庁



北海道森林管理局



北海道森林管理局 I T チームは、新たな技術への対応として、高度な I T（情報技術）スキルを持つ職員や I T の活用に意欲がある職員により結成されたチームです。自分たちが持つ知見や経験を事務・業務の効率化・省力化に役立てられるよう、各種取組を行っています。

【はじめに】

北海道森林管理局では、約304万ヘクタールの国有林の管理・経営を行っています。

職員は、林野巡視、森林調査、造林・素材生産・治山・林道などの事業発注や監督・検査、災害調査などの各種業務、また、それらに付随する事務を行っています。

これらの事務・業務の改善などを推進することを念頭に、2024年5月に「I T チーム」を結成しました。

業務調整課、企画課が事務局となり、局・署等から I T スキルに長けた職員や I T の活用に意欲ある職員を募集し、21名が集まりました（令和6年度末現在）。

以下、I T チームの取組内容を紹介します。



第1回勉強会（2024.11.12）の様子

【I T チーム設立の経緯】

これまで、普段の事務・業務の中で、「自動化することができたらいいな」、「減らせたらいいな」といったことを解決しようとする、身近にいるスキルを持った職員に頼ってしまい、組織として対応できていない状況でした。

そのような中、職員から「チームとして便利ツールの開発や普及、フォローアップを行うことで、職場全体のスキルの底上げを図ってはどうか」と

いう提案があり、I T チームを結成する運びとなりました。

【I T チームの取組】

I T チームでは、まずは三つのことを目標としました。

- ・ **減らす**：ミス、作業時間等の削減
- ・ **増やす**：現場に出る時間等の増加
- ・ **深める**：情報の精緻化、高度利用

具体的には、便利な I T ツールやマニュアルを作成し、それらを分かりやすく発信することで、職員の日常業務をサポートすることを目指しており、現在、職場内の各種課題等も踏まえ、以下のプロジェクトに取り組んでいます。

○通常業務で活用しやすい Q G I S※1のデータセット

○業務用語をパソコンの辞書（I M E 辞書）に一括で登録できるツール

○ショートカットを活用したテクニック集

○Microsoft Forms※2の活用

○現場業務（森林調査、災害調査など）に L i D A R 機能を有するスマートフォンの活用

○各ツール、マニュアルを職員へ普及させるための普及方法検討プロジェクト

○Q G I S で活用するプラグインの紹介

（チーム員が開発した QGIS 基本データセットの
マニュアル（抜粋））



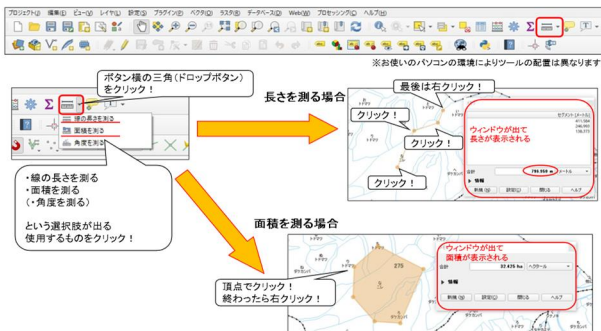
QGISの基本的な地図操作

ここでは、QGISの基本的な地図操作を紹介します

1. 画面の移動／拡大縮小操作
2. 林班の検索
3. 小班などの情報を見る
4. 距離や面積の計測
5. 縮尺／角度の設定

4. 距離や面積の計測

距離や面積の計測は、ツールバーの以下の場所で行います



【活動のPR】

2025年1月以降、「ITチーム新聞」を発刊し、活動やツール類、ITへの興味関心を高めるための情報を職員に向けて発信することにしました。



IT チーム新聞 Vol. 1

あわせて、職員共有のSharePoint※3内にITチームのサイトを立ち上げ、ツール開発状況などを確認できるようにしています。

また、ツール利用者の声をプロジェクトに反映させる取組として、投稿用フォームによる意見・要望の収集も行っています。

【浮かび上がった課題】

これまでの活動を通じて、ツールの成果や参加者の意見を職員に効果的に共有するには、より一層の工夫が必要ということが分かってきました。

また、チーム員間のやりとりについてはwebを

主体としていますが、新ツールに関する打合せ不足、メンバー間の知識差、ITチーム参加への心理的ハードルなどが明らかになり、一部メンバーに負担が集中する状況が見受けられました。

このことから、サポート体制や基礎的な勉強会を定期的実施し、ITに詳しくない職員でも参加できる雰囲気を作ることで、気軽にITについて関心を持てるようにしていきます。



プロジェクトの一つ
「現場業務にスマートフォン機能を活用」
山腹崩壊箇所撮影



スマートフォンのLiDAR機能により3D化(点群データ化)

【最後に】

ITチーム員は、日々試行錯誤しながら通常業務と並行してアイデアを出し合い、職場が抱える各種課題解決に資するよう活動しています。

「あんなこといいな・できたらいいな」を実現できる「〇〇えもん」になれるよう日々活動を続けており、徐々に職員にも認知されてきています。

今年度も組織全体の活性化につながるよう、事務・業務の改善に資するプロジェクト活動やその普及を行っていく考えです。

用語の解説

※1：QGIS（地理情報システムの一つで、閲覧、編集、分析の高度な機能を有し、誰でも自由に利用することができるオープンソースソフトウェア）

※2：Microsoft Forms（マイクロソフトが提供する社内・社外のアンケートやテスト、お問い合わせ形式などを作成・配布・集計できる特定の目的をもって開発された専用のソフトウェア）

※3：SharePoint（マイクロソフトが提供する企業向けの情報共有・コラボレーションプラットフォーム）

地域課題の解決に向けた取組

地域との協力による効率的な森林整備について

空知森林管理署

【はじめに】

空知森林管理署は、石狩空知森林計画区の夕張山系地域の6市5町に広がる、約16.4万ヘクタールの国有林野を管理経営しています。

これらの森林は、木材を供給するだけでなく、国土の保全や水源の涵養、地球温暖化をもたらす二酸化炭素の吸収・貯蔵、レクリエーションの場や野生動植物の生息環境提供など、森林の有する多面的な機能の発揮、地域産業の振興など重要な役割を担っています。

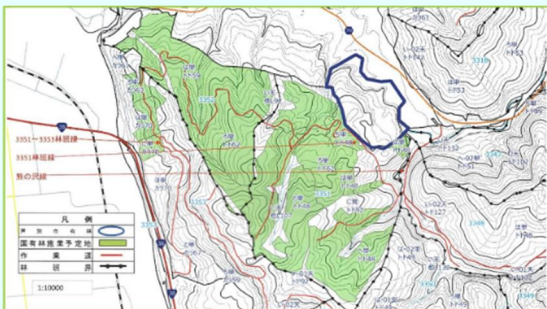
【地域林業の活性化に向けた現状と課題】

地域の人工林が伐期を迎える中、民国が連携して森林施業を一体的に実施する「施業の集約化」や収益性向上を図る「新しい林業」の普及・推進をしていく中で、地域林業の活性化に向けた取組が期待されています。

【地域林業関係者との連携】（芦別市）

令和5年3月1日、芦別市落辺（おちのんべ）地域の市有林13.24ヘクタールと隣接する国有林191.50ヘクタール、合計204.74ヘクタールを対象として、地域の森林を一体的に整備し効率的な施業を進めることを目的に「芦別市落辺地域森林整備推進協定」を芦別市と締結しました。

合理的な路網整備や効率的な森林施業を実施し、芦別地域の林業の活性化や発展に繋げる取組として、路網の共同利用などを連携して進めています。



【地域林業関係者との連携】（由仁町）

由仁町とJFEエンジニアリングは、バイオマスエネルギーの安定的・効率的な供給を図るため、由仁町伏見地区の国有林に隣接した森林を含む町有林約7ヘクタールを対象として「森林整備に関する協定」を締結しています。しかし、町有林の整備には国有林内を通行することが必要となり、また、隣接する国有林で間伐した際に木材を搬出するためには、町有林内を通行することが必要となるため、相互通行など連携した取組が求められていました。

そのため、当署、由仁町、JFEエンジニアリング、南空知森林組合の4者が現地確認・協議を行い、当署と由仁町において、令和7年3月27日、由仁町伏見地区の町有地33.89ヘクタールと隣接国有林356.92ヘクタール、合計390.81ヘクタールを対象として、森林の多面的機能の高度発揮と資源の循環利用を図ることを目的に「由仁町伏見地区森林整備推進協定」を締結しました。



【今後に向けて】

国有林のフィールドや技術力を活用し、地域のニーズを踏まえ、木育や森林環境教育などを通じた森林・林業技術者等の育成に向けた取組を実施していくとともに、地域林業の発展、森林の持つ公益的機能の高度発揮や森林資源の循環利用による地球環境の保全に貢献していきます。

こんにちは 森林官です!

上川北部森林管理署 和寒森林事務所

森林官 野々村 真和 (写真左)



【地域の紹介】

和寒森林事務所が所在する和寒町は、旭川市より北へ 36 km の北海道北部に位置しています。

東、西、南の 3 方は国有林に囲まれ、中央部は概ね平坦で名寄盆地の最南端です。作付け面積が日本一の「かぼちゃ」や雪の下で保存することで美味しさが増す「越冬キャベツ」のほか、「塩狩峠」、「三笠山自然公園」などの景勝地があり、「全日本玉入れ選手権」は全国各地からの参加者により開催されるなど、魅力の多い町です。

【和寒森林事務所の概要】

管轄する国有林は約 8.1 千ヘクタールで、和寒町全体の 36% です。大部分は降った雨が少しずつ樹木をつたい地面にしみ込み、ゆっくりと川へと流れる水源かん養保安林に指定されています。

天然林は約 5 千ヘクタールで、ニレ・シナノキ・ミズナラ・カンバなど多様な樹種構成になっています。

昭和の時代から植林してきた人工林は約 2.6 千ヘクタール、トドマツが主体で、その多くは木材として利用する時期になってきています。トドマツが混んでいるところは少し間引きしたり、植林後 60 年以上経過したところは伐採して再度植林し、持続可能な森林づくりを行っています。



【和寒森林事務所の業務内容】

森林などに異常がないか確認する巡視業務など、多種多様な業務を行っています。巡視業務の一環として行う境界の保全管理では、境界杭の付近の樹木に目印となる赤色ペンキを塗布しています。

また、台風や大雨の後には、山へ向かうための林道が壊れていないか、樹木に被害がないか、山が崩れていないかなどの確認も行っています。

昨年は、大雨により国有林でも林地が崩壊し、土砂撤去作業を実施しています。今年度の山腹工



事に向けて準備を進めています。

【塩狩採種園】

道内国有林にある 18 採種園の内の 1 つが和寒にあります。採種園とは、人工林を作るにあたって「よい種子」を確保する場所になります。成長などが優れた木を集めて育成し、毎年 6 月中旬にトドマツに花が着いているか目視し、その年の豊凶を確認しています。近年、凶作が続いていましたが、昨年は和寒でも種子の採種が行われました。

【最後に】

現場最前線でいろいろなことを経験しています。昨年度は、冬期の移動手段であるスノーモビルの操作技術などを習得しました。

も い 森 林 の 話

第 35 話

空知森林管理署

土屋 美月

若手職員のコーナーです

早いもので、空知森林管理署に勤めて3年が経過し、4年目に突入となりました。

東京都の出身ゆえに、豪雪地帯である岩見沢の積雪量に圧倒されたものの、スノーボードの魅力に取りつかれ、冬の終わりは寂しく感じます。

今回は、私が多くの人と携わせていただいた“森林環境教育”の話をしたいと思います。

【様々な森林環境教育】

皆さま、“森林環境教育”をご存知でしょうか。簡潔にいきますと、「森林や木について幅広く学ぼう!」といった活動のことです。

森林環境教育は、小中学校等の教育機関、放課後等デイサービス、就労継続支援施設など対象者の年齢や要望も多岐に渡るため、当署では対象者に合わせたプログラムを検討・実施してきました。

ここからは、その一部をご紹介します。

事例①【遊びながら学ぶ】

小学校の低学年に向けたものです。

右のようなラミネートを使用した森林クイズや測定器具（輪尺）を使って木を測る体験等をするプログラムです。



事例②【体験型学習】

高校2～3年生に向けたものです。

防風保安林（畑や家を風から守る森林）の効果

について理解してもらい、整備の一部を担う植樹を体験するプログラムです。

事例③【森林を感じる】

就労継続施設の通所者（お年寄り）や保育園児に向けたものです。

森林を散策しながら、バードコール（鳥の鳴き声ができる木のおもちゃ）を鳴らしたり、葉っぱを使ったじゃんけんをするプログラムです。



ここで紹介したほかに、「フィールドビンゴ」やカードを使ってゲーム感覚で林業について学べるものなど、一口に森林環境教育といっても多種多様です。

【森林環境教育の更なる普及に向けて】

私は、森林環境教育とは直接関係しない業務の担当でしたが、若手リーダーとして携われたことは、とても有意義な経験となりました。

森林環境教育にご興味のある方は是非、お近くの森林管理署を訪ねてみてください。

【最後に】

普段、あまり意識しないと思いますが、森林、木材は私たちの生活を支えており、欠かせない存在です。改めて、私も、その一役を担えていると思うと、日々の業務にも一層、力が入ります。

森林・林業へ興味を持って下さる方が増えることを祈りつつ、私の「森林の話」を締めくくらせていただきます。

ご興味のある方は是非、以下もご覧ください。

林野庁Webサイト：国有林野事業業務研究発表会

https://www.rinya.maff.go.jp/j/gyoumu/gijutu/kenkyu_happyo/R6/R6_happyo.html#fureai



常呂川森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育や森林ボランティア育成などに取り組んでいます。今回は、令和6年度に当センターが実施したイベントの中から3つの取組をご紹介します。

【オホーツクの森林づくり】

6月16日、「オホーツクの森（自然再生モデル林）」において、針葉樹人工林を針広混交林へ誘導・再生するための補植（植樹した木が欠損した箇所を植え直す）などを実施しました。

当日は、森林ボランティア「オホーツクの会」から10名と北見林業土木協会から8名の皆様に参加していただきました。



【ワッカネイチャースクール】

7月2日、ワッカ原生花園において、原生花園の素晴らしさなどを感じてもらうため、ワッカネイチャースクールを開催しました。

当日は、北見市立常呂小学校3年生の児童20名ほか、教員、網走南部森林管理署・当センターの職員らが参加しました。

アイスブレイクの「じゃんけんゲーム」を行った後、原生花園の散策をスタート、それぞれのマスのヒントをもとに答えを埋めてビンゴを目指す「フィールドビンゴ」と、聞こえる音のすべてを文字ではなく自分の感じた形や線で用紙に表現する「サウンドマップ」を行いました。



【山の日制定記念藻琴山森林散策】

8月24日、藻琴山において、「山の日」制定を記念とした森林散策を開催しました。このイベントは、平成28年からオホーツク総合振興局、網走南部森林管理署、当センターの3者で行っていましたが、新型コロナウイルスの影響や悪天候のため、今回は7年ぶりに開催となりました。

一般参加者、スタッフ含め総勢35名による登山散策でしたが、まもなく9合目というところで急に雨が降り出し、見通しも悪く足元も滑りやすくなったので、残念ながら途中で中断となりました。



【おわりに】

当センターでは、この他にも様々な業務に取り組んでいます。活動状況は、随時Webサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

「社会貢献の森」における森林整備活動等に関する協定を締結



【日高南部森林管理署】

4月25日、日高南部森林管理署にて、王子フォレストリー株式会社と「社会貢献の森」における森林整備活動等に関する協定を締結しました。同社は、「社会貢献の森（0.38ヘクタール）」での森林整備活動を通じて、社員等の森林に対する恵みに感謝する意識を育むこととしています。当署では、企業のCSR活動や国民参加の森林づくり等の多様な要請に応えるため、フィールド提供や技術指導に取り組んでいます。

ポロト自然休養林の浮橋を清掃



【胆振東部森林管理署】

4月8日、ポロト自然休養林（白老町）にて、植物観察用の浮橋を清掃しました。浮橋がコケで滑りやすくなっていたため、職員17名で水を撒きながらブラシでこするなど、約2時間かけて清掃しました。ポロト自然休養林では、春はお花見、夏はキャンプやカヌー、秋は紅葉狩り、冬はポロト湖でのワカサギ釣りなど、四季折々の自然やアクティビティを楽しむことができますので、ぜひ一度訪れてみてください。

漫画冊子「リン子ちゃんが行く帯広の森たんけんブック」完成



【企画課】

4月19日、「帯広の森・はぐくむ」にて、帯広の森50周年記念事業「森と絵本のつどい」が開催され、記念事業の一環として作成された漫画冊子「リン子ちゃんが行く帯広の森たんけんブック」がお披露目されました。冊子は、子ども達に、帯広の森の歴史などを知ってもらい、森に足を運び、森とどう関係していくかを考える契機になればと想い、帯広の森50周年記念事業実行委員会と北海道森林管理局が協力して作成しました。

2025春二十間道路桜並木環境保全活動



【日高南部森林管理署】

4月12日、新ひだか町の桜の名所、二十間道路桜並木にて、2025春二十間道路桜並木環境保全活動が実施されました。この活動は、新ひだか町主催によるもので、「第62回しずない桜まつり」に訪れる観光客の方々が気持ちよく桜を見られるよう環境整備を目的に実施しています。二十間道路桜並木は、老木化などの影響で倒木等が目立ってきたため、令和4年度に当署管内の国有林から、エゾヤマザクラを移植しています。

広報 「北の森林 国有林」 5月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 支笏湖】

今月は、支笏湖の風景写真を表紙にしました。日本有数の水質を誇る澄んだ水が光に照らされることで「支笏湖ブルー」と言われる青色の輝きを放ちます。



今月の表紙